

“かえるランド” によようこそ ～ 4・5 歳児のかかわり～  
三島市立大場幼稚園（静岡県三島市）

[4・5 歳児]

当初の状況

入園当初は保育者に誘われてダンゴムシ探しをした4歳児だが、園生活に慣れてくると5歳児の存在に気付き、一緒にダンゴムシ探しをするようになった。また、夏野菜の栽培を始めた5歳児が、毎日熱心に水やりをする姿を見て、「自分たちもやりたい」という欲求が表れるようになり、4歳児も種まきをして栽培活動を始めた。



事例 かえるランドへようこそ [5歳児]

活動の流れ	子どもの姿
<p>オタマジャクシ捕り</p> <p>図鑑を見ながら家づくり 田んぼの水・土 田んぼの土・水道水 砂場の砂・水道水の家を作る</p> <p>身体表現 カエル跳び カエル幅跳び カエルになって遊ぶ</p>	<p>・「わー、動いている」「たくさんいるね」「早くてなかなか捕まらないよ」と、自然の中で見るオタマジャクシや、あめんぼうなどの動きに興味を示す。</p> <p>・「水が濁って中が見えないよ」「水草を、食べてるね」水の濁り方が違うことや、田んぼの水草が餌になることを知る。</p> <p>・「カエルになっちゃったよ。ほら」と跳ねる。「私も」「僕も」と皆で跳ねる。床に線を引き、カエルとオタマジャクシの絵を貼る。カエルの幅跳びや、ブロックでカエルの家を作り、自分たちがカエルになって遊ぶ。</p>



かえるランドごっこ

「かえるランドによようこそ」  
4歳児を迎えて、お面をかぶせてあげる。



・かえる人形劇



・かえるUFOキャッチャー

4歳児をかえるランドに招待し、共にカエルになって遊ぶ事で、オタマジャクシやカエルへの興味・関心が高まって、その後もオタマジャクシの成長を見守り、変化を伝え合うようになった。



・かえる絵合わせ



・かえる探しゲーム



・かえる的当てゲーム

オタマジャクシを逃がしに行く。

・「オタマジャクシさん、さようなら。立派なカエルになってね」「また一緒に遊ぼうね」と、声をかけながら別れを惜しむ。

事例 蝉のぬけがら [4歳児]

5歳児と一緒に蝉のぬけがらを見つけた子がみんなに見せたことをきっかけに、ぬけがら探しが始まった。初めてぬけがらを見た子は生きている虫だと思い、恐がって触ることもできなかった。それでもみんながぬけがらを持っていると自分も先生に取ってもらい、ビニール袋に入れて家に持って帰りがたがる。家に持って帰る時、お母さんにうれしそうに話している子、蝉のぬけがらを気持ち悪がるお母さんなど様々な様子が見られた。幼稚園でぬけがら探しの経験をした子ども達は、家に帰ってからも探しているようである。いつの間にか蝉のぬけがらは子ども達の宝物になったようだ。

みどころ

同じ場で活動する子ども同士は、異年齢であっても自然に影響し合いかわりをもつ姿が見られます。この事例では、5歳児の虫探しや栽培での水やりなどが、4歳児にとって魅力的な“まねたい姿”になっていることが分かります。5歳児は4歳児を楽しみ遊びに招待するという活動を通して、自分たちのカエルとのかかわりも深まっています。その後も4歳児にとって5歳児は興味や憧れの対象であり、蝉のぬけがら探しなどからも、交流や信頼関係が深まっていったことがうかがえます。